

カナダ(トロント)におけるデータセンター事業の説明会

(説明会概要・質疑応答)

日時	2024年3月25日
場所	カナダデータセンター(トロント)
内容	データセンター設備見学、説明、質疑応答
登壇者	KDDI Canada, Inc. President & CEO 足立 智 EVP & COO 久保 篤 設備部門 Doug Special Advisor Mark Director

データセンター事業の説明

KDDI グループでは、コンテンツプロバイダやクラウド事業者、通信事業者などのお客さま同士が相互接続しやすい高品質なコネクティビティデータセンター(以下、コネクティビティ DC)を中心に、グローバルでデータセンター事業を展開しております。

2023年6月に「KDDI Canada, Inc.」を設立、カナダでデータセンター事業を運営する Allied Properties REIT からデータセンター事業を譲り受け、2023年9月より当社による運用を開始しました。カナダのコネクティビティ No.1 のデータセンター事業の取込みにより、欧州、アジアに北米を加えた3極で事業の拡大を目指します。

設備の見学

トロントのデータセンター3棟のなかの1つで、カナダで最も多い相互接続数を誇る「151 Front Street West」を拠点責任者である足立 CEO、久保 COO、設備部門長の Doug Special Advisor, Mark Director の解説を聞きながら見学いただきました。カナダでの初めての電報が疎通した歴史的な場所であること、Enwave 社とのパートナーシップにより、低温のオンタリオ湖水を利用した自然冷却を優先的に利用し、空調設備(チラーなど)をバックアップすることで通常運転時の電力消費を大幅に節減することが可能な環境配慮の空調設備をご覧いただきました。

質疑応答

- Q. 北米にはコネクティビティデータセンターはどのくらいあるのか。
A. 正確なデータはないが、60以上の相互接続があるデータセンターがコネクティビテ

ィデータセンターとされ、ロサンゼルス、サンフランシスコなどで運営されている。その中でも、当社のデータセンターは、すでにカナダ 3 大キャリアをはじめ欧米キャリアやインターネットプロバイダが多数入居しているのに加えて、AWS 社や MS 社などコネクティビティ DC の魅力につながる企業が入居しているのが強み。コネクティビティ(ネットワーク事業者)の数ではカナダ国内では圧倒的、アメリカを含む北米でも 300 弱も利用できるのはトップレベル。

Q. トロントのデータセンターでどのくらいのスループットがあるのか。

A. 帯域という観点で各入居者である事業者のみが知りえるため測定はできないが、データベースからもトロントの人口からもこのデータセンターのエコシステムによりカナダ国内インターネットトラフィックの大半が疎通していると推測できる。

Q. 利用するお客さま企業との契約期間はどのくらいか。

A. 5 年または 10 年の契約期間となっている。コネクティビティデータセンターの強みは、事業者同士が複数つながりあう構造上、ハイパースケーラー向けのデータセンターに比して解約率が低いことも挙げられる。

Q. コネクティビティ DC とハイパースケーラー DC とで立地やお客さまの数にどのような違いがあるか。

A. ハイパースケーラー DC は規模が大きいこともあり郊外に設置されるケースが多い。自社利用が主な目的となり、データセンターに入居するお客さまの数は少ない。コネクティビティ DC は市街地に設置されることが多く、相互接続という特性から入居するお客さまの数は多く、加えて今後も動画需要からもデータトラフィック増だけでなく、関連事業者も増えるため数の側面も接続が増えていくと予想される。

Q. さらに市場が拡大し需要が期待できるとして、今度のキャパシティ拡大の計画は。

A. キャパシティの拡大にはテクノロジーに加え冷却技術も必要となっていく。サーバはお客さまのものなので、お客さまサイドで機器のアップグレードをするということでのキャパシティ拡大もある。当社でのキャパシティ拡大はお客さまの需要をみながら検討していく。

Q. カナダ DC のバリュエーションはどうみているか、収益力や価値評価は妥当か

A. EBITDA マージンも 5 割を超えており、EBITDA マルチプルも試算では、データセンターの約 30 倍といわれている水準より低い。

参加者のご感想

- データセンター見学会は期待を上回るものだった。
 - 足立 CEO のプレゼンテーションは素晴らしかった。登壇者は投資家の質問にも丁寧に回答し、データセンターのさまざまな観点でディスカッションしてくれた。
 - 私は長年にわたり、電気通信を含むいくつかのセクターの IR 活動に携わってきましたが、これまで参加した中で最高の見学ツアーだった。
- など、理解が深まったとのお声を多くいただきました。